

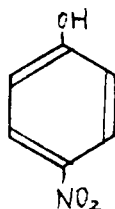
p-ニトロフェノールの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年10月23日～昭和50年11月14日

2. 試料名 p-ニトロフェノール (試料No K-155)

分子式 $C_6H_5NO_2$

構造式



3. 試験方法及び条件

環保業第5号

薬発第615号

49基局第392号

微生物等による化学物質の分解度試験による

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

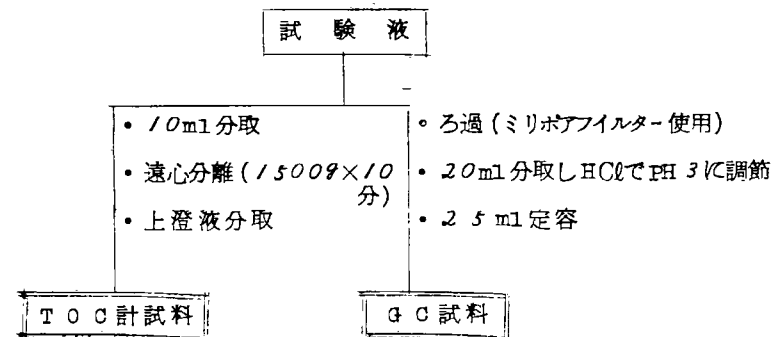
3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

全有機炭素分析計

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

全有機炭素分析計 (TOC計)

流速 TOC回路 200ml/min

温度 TOC炉 880℃

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 アピエゾングリ-スL10%+ H_3PO_4 3%/クロモニルPW

ガラスカラム 2mm ϕ x 2m

カラム温度 158℃

(以下次頁に続く)

4 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	4.3	/	—
T O C 計による結果	※(-)	2	/
G O による結果	※(-)	3	2

※ 負の値を得たので(-)とした。

5 そ の 他

K-155はpHにより発色が安定しないためUV測定は行わなかつた。

G O の測定ではpHを念のため固定し(pH3)で測定した。

間接定量が4.3%の分解度を示しているがクロメーター②のもれの影響によるものと推定され、実際の分解によるものではないと考えられる。

以 上